

## 令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県南会場

#### 科目 ③子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ

- ◆ 放課後児童クラブの運営には、たくさんの事業が関連していることを学びました。そして、その経費として、国や県、市町村がそれぞれ負担し、支援を行っていることも初めて知りました。親が安心して子どもを預けることができ、子どもたちも安全に過ごすことができる場所として、放課後児童クラブがあり、その組織の一員として携わっているのだという自覚を持ち続けていかなければならないと思いました。
- ◆ 放課後児童クラブの運営事業について学びました。事業がたくさんあり、その役割や法律などを今までよく分かっていなかったことを気付くことができました。児童厚生施設、新・放課後子ども総合プランの話はとても興味深く、放課後子供教室と一体型の放課後児童クラブがこの先増えてくれたらよいと思います。放課後児童クラブではどうしてもできることが限られてしまうので、体験活動の場などがあると児童たちも楽しいだろうなと思いました。
- ◆ 子ども・子育て支援新制度における放課後児童健全育成事業の概要を学ぶ機会になりました。様々な角度からの支援事業があることを知ることができたほか、障害児福祉施策や児童厚生施設など児童一人一人に応じて利用できる場があることは大切なことであると思いました。今後、放課後児童クラブと放課後子供教室の一体型が増えてくると、子どもにとってよりよい環境になってくると期待し、柔軟に業務に取り組んでいきたいと感じました。
- ◆ 今回の研修に参加して放課後児童クラブの運営に関連する事業の多さに正直驚きました。どの事業も保護者のことを考え、また色々な家庭環境のことを考え、そして何よりも子どもたち一人一人が安心して生活できるように健やかに育つよう支援する目的があると痛感しました。知らなかった事業もあったので、活動している放課後児童クラブの状況を確認しながら、今後の活動に役立てたいと思います。
- ◆ 新・放課後子ども総合プランのモデルケースをみて、とても魅力的な取組であると感じました。受付でリストバンドを配付して放課後子供教室と放課後児童クラブの利用者を判別する仕組みやそれぞれ専用の部屋があったりと双方の良いところを取り入れて、楽しく共存できる施設が将来的に増えてほしいです。また、少子化で子どもが減っている一方で障害児が増加しているような気がします。放課後児童クラブでも積極的に受け入れられるような体制が広がるとよいと思います。